

安全データシート
リキッド DAB

作成日:2010年12月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品及び会社情報

製品名	リキッド	DAB(リキッドダブ)
製品コード		210-303-2
会社名		株式会社ファルマ
住所		東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号		03-6407-2570
FAX番号		03-3465-0300
電子メールアドレス		tokyo@falma.co.jp
緊急連絡先		080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限		試験研究用:病理組織染色用発色試薬

2. 危険有害性の要約(製品の情報はなため、成分のデータから区分を推定した)

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 3
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 5
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2
	生殖毒性	区分 1B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1(中枢神経系、視覚器、全身毒性) 区分 3(麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1(中枢神経系、視覚器)

上記以外の項目は、区分外、分類対象外又は分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による中枢神経系、視覚器の障害

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火などの着火源から遠ざけること。
 容器を密閉しておくこと。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 使用前に取扱説明書を入手すること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 蒸気を吸入しないこと。
 換気の良い場所でのみ使用すること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

応急措置

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
 皮膚を水で洗うこと。
 眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。

保管

廃棄

眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 容器を密閉し、-20℃以下の冷凍庫に施錠して保管すること。
 内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分及び濃度

成分	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)
メタノール	25	67-56-1	(2)-201

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

皮膚を水で洗うこと。

皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。

眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	
消火剤	粉末、二酸化炭素、水、耐アルコール性泡消火剤
特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業には、保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。 すべての着火源を取り除く。 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはならない。
封じ込め、浄化の方法及び機材	乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる化学品廃棄容器に回収する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	作業場には全体換気装置、局所排気装置、洗眼器、安全シャワーを設置すること。火気厳禁。
安全取扱注意事項	炎や高温のものから遠ざけること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 眼に入れないこと。 皮膚に接触又は飲み込まないこと。 飲み込まないこと。 皮膚と接触しないこと。

	換気の良い区域でのみ使用すること。
	保護衣、保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
衛生対策	取扱い後は手などをよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉し、-20℃以下の冷凍庫で施錠して保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	200 ppm
許容濃度	
日本産業衛生学会(2018年版)	200 ppm、260 mg/m ³
ACGIH(2017年版)	TLV-TWA 200 ppm
	TLV-STEL 250 ppm
設備対策	貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて、有機ガス及び蒸気用フィルター付きマスクなどの呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ長袖作業着を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	
形状	透明～半透明液体
色	赤～褐色
臭い	微臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	23～60℃
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気 = 1)	データなし
比重(密度)	データなし
溶解度	水と混和
オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定。
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	酸化剤と激しく反応し、火災、爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	加熱
混触危険物質	強酸、酸化剤
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報(製品の情報はなため、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性

経口 ヒトで約半数に死亡が認められる用量が 1400 mg/kg である(DFGOT vol. 16(2001))ことから区分 4。

製品の濃度から区分 5

経皮 ウサギ LD₅₀=15800 mg/kg(DFGOT vol.16(2001))

製品の濃度から区分外

吸入(蒸気) ラット LC₅₀>22500 ppm(4 時間換算値:31500 ppm、DFGOT vol.16(2001))から区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 データなし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 ウサギを用いた試験で軽度ないし中等度の眼刺激性が認められたとの記述(EHC196(1997))があるが、回復性について明らかでないため区分 2

製品の濃度から区分 2

呼吸器感受性 データなし

皮膚感受性 モルモットを用いた皮膚感受性試験で感受性は認められなかった(EHC 196(1997))ことから区分外。

生殖細胞変異原性 マウス赤血球を用いた *in vivo* 小核試験で陰性(Patty(5th, 2001))であることから区分外。

発がん性 NEDO による未発表報告でラット・マウス・サルの試験で発がん性なし(EHC 196(1997))。

生殖毒性 妊娠マウスの器官形成期吸入ばく露試験において、胎児吸収、脳脱出などが見られた(Patty(5th, 2001))。ヒトのデータはないが、ヒトの発生に悪影響を及ぼす可能性がある結論されている(NTP-CERHR Monograph(2003))ことから区分 1B。

製品の濃度から区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露) ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、視覚障害、頭痛、昏睡、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16(2001))ことから区分 1(中枢神経系)。

標的臓器として視覚器、頭痛、嘔吐、昏睡などの記載もあるので全身毒性。ヒトの急性中毒に関する所見として中枢

	神経系の抑制から麻酔作用が生じている (PATTY(5 th 、2001))ことから区分 3(麻酔作用)。
	製品の濃度から区分 1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)、区分 3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトへの低濃度長期ばく露による顕著な症状として眼の障害(EHC196(1997))、失明がみられた ACGIH(7 th 、2001))ことから区分 1(視覚器)。蒸気の繰り返しばく露により頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述(ACGIH(7 th 、2001))から区分 1(中枢神経系)。
	製品の濃度から区分 1(中枢神経系、視覚器)
誤えん有害性	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(長期間)	区分外
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連分類・国連番号	非該当
注意事項	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう、積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物 名称等を通知すべき危険有害物 危険性又は有害性等を調査すべき物 第 2 種有機溶剤等 危険物・引火性の物 作業環境評価基準

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。